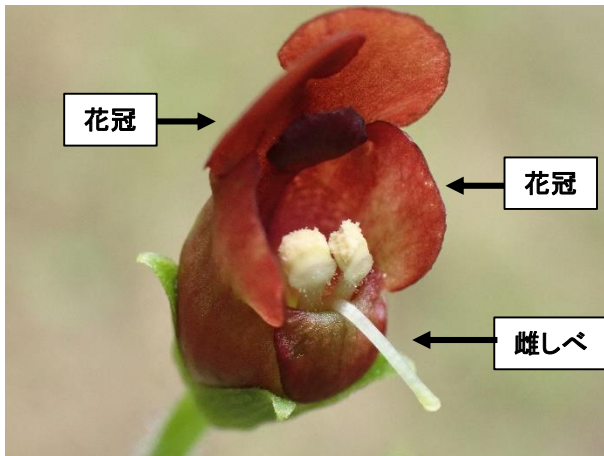
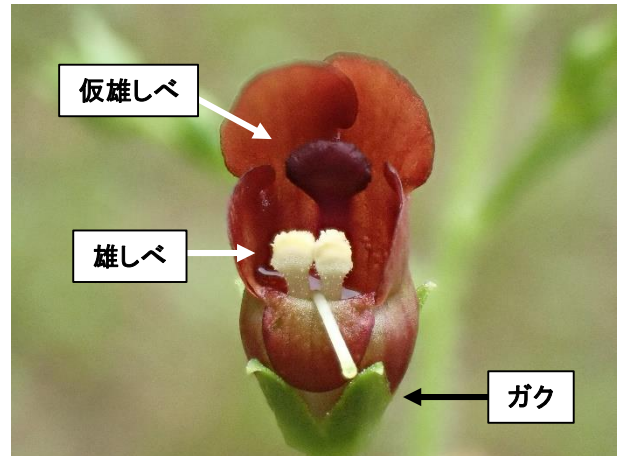


## 植物多様性センターの「オオヒナノウスツボ」

オオヒナノウスツボは、ゴマノハグサ科の多年草です。丘陵地や山地の明るい草地などに生育していますが、花は名前の通り小さなつぼ型で、たっぷりと蜜を貯められる構造になっています。雄しべや雌しべもユニークで、花冠の下の裂片の真上に4本の雄しべがそろってつき、その下から花柱が突き出ています。いったいどんな虫がやってきて花粉を運ぶのでしょうか？



開花初期の花:4個の葯が開葯して花粉を出している



蜜がたまった花冠:開花後、柱頭の先も粘性を帯びている



自生地での開花の様子:高く伸びた花茎に横向きに咲く



小花柄の毛:開出する腺毛をびっしりにつける

